

II. 事業の概要等

1. 事業の概要

(1) 教育環境整備

- ① 平成 27 年度入学者から新たにスタートする新カリキュラムを構築し、それを実行する教員組織の充実を検討し、一部実施した。
- ② 新カリキュラムは、多職種連携や将来の進路を意識した履修計画を設定できるような神戸薬科大学の教育編成方針の特色をアピールできる内容にするとともに、低学年から各科目間の関連を意識したカリキュラムを作成した。
- ③ 新カリキュラムの導入に伴い進級要件の見直しを行い、履修規程を改正した。1～3 年次生においては必修科目未修得単位数を 3 単位から 4 単位に緩和した。併せて、在学期間の見直しもを行い、「第 2 年次修了までに 4 年」と、これまで 3 年であったのを 4 年とする学則の改正を行った（新カリキュラム該当の 1 年次生から適用）。
- ④ 平成 24 年度に採択された文部科学省私立大学教育研究活性化設備整備事業の取組「e-ラーニング教材利用による薬学生の総合的英語力向上」により導入した e-ラーニングシステムを積極的に活用し、目的の達成を図った。
- ⑤ 平成 26 年度は、TOEIC 受験費用を補助し、TOEIC での高成績を平成 26 年度から開講される「語学検定」の成績評価につなげるにより英語力の向上を図った。平成 26 年度の TOEIC 受験者は 478 人（平成 25 年度 86 人）であり、1 人から単位認定の申し出があり、これを付与した。
- ⑥ 今年度もマサチューセッツ薬科健康科学大学及び昭和ボストン校の協力による 4、5 年次前期「海外薬学研修」を実施し、13 人（平成 25 年度 14 人）の学生が日米における薬剤師業務の相違の見聞を通して、医療現場での国際的視野を涵養した。
- ⑦ 神戸大学と大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムで実施していた「Student CASP ワークショップ(略称：CASP)」を新たに 5、6 年次の単位認定科目とし、受講学生の単位認定を可能とした。受講者は 29 人（平成 25 年度 75 人）であった。
- ⑧ 教育システムの改善に努めるとともに平成 26 年度私立大学等改革総合支援事業「タイプ 1：建学の精神を生かした大学教育の質向上」に申請し、選定された。

(2) 研究推進事業

- ① 知的財産ポリシーを制定し、発明規程、発明委員会規程などの関連規程を整備し、本学の研究成果の活用を図るとともに、企業等との共同研究を推進しやすい環境を整え、外部資金導入を促進し、研究の一層の活性化を図った。
- ② 先進的研究に必要な大型機器を購入しやすくするため、大型機器充実資金の積立額を増大した。
- ③ 平成 24 年度に採択された『私立大学戦略的研究基盤形成支援事業』の「疾患糖鎖生物学に基づく革新的治療薬の開発」の研究プロジェクトを引き続き実施した。
- ④ 平成 26 年度私立大学等経常費補助金特別補助の『大学間連携等による共同研究』に 14 件を申請し、特別補助を受けた。

(3) キャンパス整備

- ① 今後におけるキャンパス全体の耐震化及び改修案を策定し、その第一ステップとなる 8 号館の建替えを決定し、基本計画の立案に着手した。
- ② 5 号館ホワイエロールカーテン改修、生駒池(通称：ベンゼン池)の散策路の整備、7 号館(学生会館)耐震補強工事を行った。
- ③ 動物実験施設における空調設備等の改修工事を計画し、着手した。

(4) 諸規程の改正

学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）及び学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）の一部改正に伴い、神戸薬科大学学則をはじめとする諸規程の改正作業を行った。

(5) 大学広報の強化

広報強化の一環として、広報委員会の役割と担当者の見直しを検討した上で、大学ホームページの平成 27 年度からの全面的リニューアルに向けた作業を行った。

(6) 就職支援

- ① 就職先の多様化を図るため、進路支援スタッフを充実させ情報収集を更に強固にし、改善を図った。

企業については、MR 仕事研究講座を 2 回実施し、模擬面接（受講者 134 人－平成 25 年度 145 人）や模擬グループディスカッション（受講者 69 人－平成 25 年度 70 人）、「エントリーシートを書いてみよう」の添削（対象者 192 人－平成 25 年度 27 人）等を行った。

また、病院については、病院ガイダンス（受講者 126 人－平成 25 年度 120 人）、公務員ガイダンス（受講者 53 人－平成 25 年度 25 人）を行った。

- ② キャリアサポートの強化

- 1) 全学年を対象とした「キャリア教育講座」や「ビジネス・マナー講座」を有機的に企画しキャリアサポートの強化を行った。

「キャリア教育講座」の参加者は 100 人（平成 25 年度 30 人）、

「ビジネス・マナー講座」の参加者は 124 人（平成 25 年度 70 人）であった。

- 2) 5 年次生対象の「就職ガイダンス」の参加者は、計 6 回開催で 1170 人（平成 25 年度 1104 人）、5 年次生対象の「就職フェア」の参加者は 320 人（平成 25 年度 290 人）、全学年対象の「保護者のための就職ガイダンス」の参加者は 47 人（平成 25 年度 45 人）、全学年対象の「キャリアガイダンス」の参加者は 41 人（平成 25 年度 38 人）であった。

- 3) 「インターンシップ」を引き続き実施した。

- ③ 平成 26 年度から全学年対象とした公務員試験対策講座を開講し、27 人の受講者があった。

そのうち、受講した 6 年次生 9 人全員が地方公務員試験に合格した。

- ④ 求人情報の閲覧を自由に行えるよう、学生支援センター内に学生専用のタブレット携帯機器を 1 台設置した。

(7) 入学試験制度

多様化した入学試験による入学者の学内試験成績の分析に基づき、平成 25 年度末に発表した平成 28 年度一般入試中期の受験科目について英語から数学へ変更すること及び化学と生物の選択受験から化学のみと変更することの実現に向けて詳細な検討を行った。

(8) 学外連携の推進

- ① 新カリキュラムの内容にある多職種連携教育について、甲南女子大学看護リハビリテーション学部と相互に授業参観を行うとともに平成 28 年度実施に向けて話し合いを継続した。

- ② 連携校として参画している文部科学省の『がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン』の取組「地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成」の事業として、第 4 回～第 6 回の 3 回のがんプロ講演会とシンポジウムを 1 回開催した。また、同じく連携校である大阪薬科大学とは、平成 26 年 11 月に本学が開催した講演会に大阪薬科大学が、平成 26 年 8 月及び平成 27 年 2 月に大阪薬科大学が開催した講演会に本学が「共催」し、相互の関係を強化した。

- ③ 神戸大学・神戸薬科大学薬剤師レジデントについて、学生が応募しやすくするため研修期間を 1 年間でも可能とする内容に変更するとともに、選考時期を 6 月に早め、3 人を採用することとした。

(9) 生涯研修事業

- ① 卒後研修講座；第 40 回「感染症をどう抑えこむかー予防と治療ー」をテーマに実施し、受講者は 680 人（平成 25 年度 774 人）であった。

- ② リカレントセミナー；第 60 回～第 65 回の計 6 回の研修会を実施し、受講者は 400 人（平成 25 年度 439 人）であった。

- 第 60 回；服薬指導シリーズ 34「骨粗鬆症について」
- 第 61 回；ビギナーのためのフィジカルアセスメント
- 第 62 回；疾患別病態・薬物治療と症例検討シリーズ 9「腎障害時の薬物治療」
- 第 63 回；医薬品情報の活用の仕方
- 第 64 回；服薬指導シリーズ 35「在宅における緩和ケアについて」
- 第 65 回；中級者のためのフィジカルアセスメント

- ③ 薬剤師実践塾；第 26 回～第 29 回の計 4 回の「在宅医療研修会」を実施し、受講者は 103 人（平成 25 年度 2 回開催し、40 人）であった。
 - 第 26 回；在宅療養における薬剤師の役割－薬剤師だからできる支援事例を交えて－
 - 第 27 回；患者・他職種とのストレスフリーなコミュニケーション術－タイプ別効果的な関わり方で仕事をスムーズに－
 - 第 28 回；在宅医療－実践的スキルアップ研修－
 - 第 29 回；輸液調製の基礎と実践
- ④ 健康食品講座；第 12 回（健康食品に関する最近の話題と製品情報）、第 13 回（健康食品基礎講座、フォローアップ講座）の計 2 回実施し、受講者は 587 人（平成 25 年度 498 人）であった。
- ⑤ 第 7 回シンポジウム；「がんのチーム医療」をテーマに実施し、受講者は 195 人（平成 25 年度 229 人）であった。
- ⑥ 今年度で 3 年目となる「在宅医療を支援する指導薬剤師養成プログラム」は、5 人（毎年 5 人）の受講者が在宅医療を推進している神戸市垂水区医師会との連携に関する協定に基づき、多職種による症例検討会や在宅患者宅への訪問同行、診療見学、地域包括支援センターでの研修を実施した。
- ⑦ 平成 26 年度の研修認定薬剤師証交付数は、新規 12 件、更新 101 件（平成 25 年度新規 16 件、更新 80 件）であった。

(10) 自己点検・評価

- ①（公財）大学基準協会の第二期大学評価（認証評価）を受審するため、学内関係部署に原稿作成を依頼し、編集作業を行い、点検・評価報告書を平成 27 年 3 月に提出した。
- ②（一社）薬学教育評価機構が行う薬学教育評価（認証評価）を平成 28 年度に受審することが決定し、平成 27 年 1 月に説明会に出席した。
- ③ 平成 25 年 9 月に実施した学生実態・満足度調査の結果を基に、満足度の低い事項について、自己点検・評価委員会から関連する委員会、部署等に改善の検討を依頼した。
- ④ 平成 25 年度に引き続き、自己点検・評価委員会からの依頼に基づき、各種委員会及び部署等が自己点検・評価を実施し、報告された内容を自己点検・評価委員会で精査し、委員会及び部署の活動の適正化を図った。

(11) その他

- ① 平成 26 年度の F D・S D 研修会を、次のとおり実施した。
 - 8 月 7 日、8 日－授業の基本、成績評価
 - 11 月 10 日－超高齢社会における薬剤師の役割
 - 12 月 8 日－動物愛護保護法及び文科省基本方針と大学における動物実験
- ② 有機溶剤業務従事者労働衛生教育にかかる講習会を実施した。
- ③ 防災備蓄倉庫（6 号館 1 階）の整備を行う計画を立てた。
- ④ 学校法人会計基準の改正に伴い、会計パッケージシステムの導入を行った。
- ⑤ 神戸薬科大学年史第三巻を平成 27 年 6 月末発行に向けて編集作業を行った。

以上